

第二十二回

中村邦生の会

平成二十八年十一月三日(祝・木)

午後二時始(開場午後一時十五分)

十四世喜多六平太記念能楽堂

おはなし 関 幸彦

狂言

文 荷 野村万蔵

井 筒 中村邦生

段之序



番組

おはなし 関幸彦(日本大学教授)

狂言

文荷

シテ・太郎冠者 野村万蔵

アド・主人 能村晶人
小アド・次郎冠者 野村万緑

能 休憩二十分

後シテ・紀有常の娘の霊
前シテ・里女 中村邦生

井筒

段之序

ワキ・旅僧 殿田謙吉

アイ・里人 野村万蔵

大鼓 佃良勝
小鼓 成田達志
笛 栗林祐輔

後見 内田安信
金子敬一郎

地謡
佐藤寛泰 大川靖定
栗谷浩之 香川昭世
友枝真人 友枝茂

終了予定時刻 五時頃

チケット料金 全自由席
(座席指定可/指定料¥1,000)

一般券	正面・脇正面	¥6,000
	中正面	¥5,000
	二階席	¥3,000
学生席(二階席)		¥2,000

チケット販売開始は、9月頃の予定



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9
*JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅下車、徒歩7分

あらすじ

井筒 (いづつ)

寂しき秋の夜の古寺-古塚に回向する女-「井筒」についての回想的語り-僧の夢と業平が憑依した女性の霊。ストーリーのおおよその流れは、こんなところか。業平と紀有常の娘の夫婦の愛の物語が主題。『伊勢物語』<二十三段>に見える「井筒」を素材に、「マメ男」(業平)への愛をつらぬく”待つ女”の姿が……。観音の如き清らかなさを宿す純愛がポイントか。初瀬(長谷)に近い在原寺との地縁の結びつきも連想される。恋を菩薩行をする業平的世界にあっても”待つ女”の純情の故に、「愛は勝つ」ことが活写されている。

文荷 (ふみにない)

いささか訓み方が難しい。主人から託された恋文を預り、荷うところから「ふみにない」と。太郎冠者、次郎冠者の掛け合いでの道すがら、その文を覗きみる二人の従者たち。読み返すうちに、肝心の文はすり切れ、まさに「風の便り」に。主人にも、冠者たちにも「恋は曲者」だった。

*なお、会場での撮影・録画・録音は、堅くお断りします。又、携帯電話等、音の出る物もご遠慮お願いいたします。

☆お問合せ

・中村邦生の会 TEL03-5310-5690
・喜多六平太記念能楽堂 TEL03-3491-8813